

来週の市場とレート予想

	6/12(月)	6/13(火)	6/14(水)	6/15(木)	6/16(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 700	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 10,000	+ 2,000	△ 2,000	+ 47,000	+ 1,000
資金需給	△ 9,300	+ 2,000	△ 2,000	+ 47,000	ト ン
主要要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 10年物価連動国債償還		源泉税揚げ	年金定時払い 国債発行・償還(2Y)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,900 CP等買入 △ 800 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 300		被災地支援 △ 900		
オペスタート	共通担保(全店) + 2,800 ETF買入 + 200	国債買入 + 8,800 短国買入 + 7,500	被災地支援 + 900		
(日本)	企業物価指数(5月)	日銀営業毎旬報告 (6月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		日銀金融政策決定会合 (16日まで)	日銀金融政策決定会合 結果公表 黒田日銀総裁会見
(海外)	米 財政収支(5月)	米 FOMC(14日まで) 米 生産者物価指数(5月)	米 FOMC声明発表 米 イエレンFRB議長会見 米 CPI(5月) 米 小売売上高(5月) 米 企業在庫(4月)	米 週間新規失業保険申請件数 (10日終了週) 米 NY連銀製造業 景況指数(6月) 米 ファイデルフィア連銀製造業 景況指数(6月) 米 鉱工業生産(5月) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ユーログループ)	米 シカゴ大学消費者 マインド指数(6月速報値) 米 タラス連銀総裁講演 欧 欧州新車販売台数(5月) 欧 ユーロ圏CPI(5月、改定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、347兆2,900億円から始まった。その後、短国・国債買入オペを主に増加し、週末には350兆6,500億円となった。  
無担保コールON物は、積み期後半に入り、一部市場参加者の調達意欲がやや強まり、同加重平均金利は先週対比0.005%程度上昇の△0.058%~△0.053%で推移した。  
ターム物は月内エンドとなる1W~3W物を中心に△0.04%~△0.03%のレンジで出合が見られたが、6月末越えのターム物は特に目立った動きはなかった。  
日銀は9日、当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率(2017年6月~2017年9月積み期間適用分)を20%に定めた。  
来週は、日銀金融政策決定会合(15~16日)、海外では、FOMC(13~14日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.150 ~ △0.090
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,700億円で、週間償還額の約4,300億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。入札では、商社・鉄鋼・石油業態で月中償還の大型案件がみられ、その他金融で3M以上の長めのタームでの大型案件が実施された。  
発行レートについては、投資家の旺盛な運用ニーズは変わらず、多くの銘柄で0.001%割れでの出合いとなった。6日に、CP等買入れオペが3,500億円(前回2,500.億円)でオファーされた。5月末の大量発行を受け、応札額が1兆2,471億円と膨らんだ結果、按分レートは▲0.007%と前回(▲0.010%)から小幅上昇した。  
来週の発行市場は、週間の償還額は5,200億円程度となっている。一般事業法人では、四半期末決算を睨み発行減少が予想され、償還超となる見込み。  
発行レートは、投資家の運用ニーズが相変わらず強く、概ね横這い推移と思われる。

<TDB>

国庫短期証券市場は買入オペへの期待剥落から需給が緩く、総じて軟調な地合であった。7日に行われた6M第687回債の入札は、最高落札レートは△0.0982%(前回債△0.1302%)、平均落札レートは△0.1042%(同△0.1382%)と前回債とから利回りが大きく上昇。8日の3M(688回債)入札も最高レート△0.0922%(前回債△0.1162%)、平均レート△0.0970%(前回債△0.1218%)と△0.10%を上回る水準となった。週末のセカンダリー市場では3Mが△0.115%、6Mが△0.105%の出合となっている。来週は14日に3M、15日に1Yの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.07%台の出合いから始まり、週央までは同水準で推移した。TDB6M・3Mの発行が重なった12日受渡しでは△0.06%近辺まで上昇。週末には国庫短期証券・国債買入オペが合計1兆6300億円オファーされ、△0.09%台まで低下し越えた。  
SC取引では、週を通して5年131回債のbidが多く、9日の輪番オペ後には△0.20%台で多く取引された。10年345回債、346回債も週央以降bidが増加。共に△0.10%台前半の出合いも見られた。その他2年372・373・374・375・376回債、5年130回債、10年333・334・335・336・338・341・343・344回債、20年159・160回債、30年52・53・54回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。